8月16日（日曜日）「洗礼者ヨハネ（5）殉教」

【新改訳 2017】

ルカ　3•19、20

「さて国王ヘデロは、その兄弟の妻ヘロデヤのことについて、また、自分の行った悪事のすべてを、ヨハネに責められたので、ヨハネを牢に閉じ込め、すべての悪事にもう１つこの悪事を加えた。」

　パブテスマのヨハネは国主ヘロデの悪事を容赦なく責めました。それゆえ、ヘロデはヨハネを投獄しました。その後、自分が横取りした兄弟の妻ヘロデヤの娘の踊りの褒美として、ヨハネの首を求められ、心を痛めながらも約束を果たさざるを得ず、斬首したのでした。

　ヨハネは殉教したのです。この出来事の背景については、マタイは詳しく記しています（マタイ14•1－12）。イエスはこのことを聞かれた時、ひとり、寂しい所へ行かれました（同 13 節）。きっと心を痛められ、悲しみに浸り、祈りの時をもたれたのでしょう。

　イエスはバプテスマのヨハネを、女から生まれた者で最も

優れた人であると言われました（マタイ2•2、ルカ 7•28 参照）。主の道は殉教者によって備えられたことを忘れてはいけません。

～祈り～

主よ。今日、あなたの福音が私たちに伝えられるまでに、どんなに多くの殉教者が生まれたことでしょう。どうか、その福音にふさわしく生きる者であらせてください。

【学びのために】

ルカ 9•7-9、マルコ 6.14-29 ほかにも、ヨハネの殉教のいきさつが詳述されています。

権力者の恐ろしいまでの名誉心と、矛盾したことをしてでも権力の座と名誉を守ろうとする心理がわかります。